

和歌山県田辺湾への 2013 年 4 月以降のハクジラ類（哺乳類）の記録

Shin KUBOTA : Records of Odontoceti (Mammalia) since April in 2013
in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

筆者らは、1992 年 4 月から 2013 年 3 月までの 21 年間に、和歌山県田辺湾で記録された 7 種の鯨類（種不明コマッコウ科鯨類、種不明ゴンドウ類、シワハイルカ、スジイルカ、スナメリ、ハナゴンドウ、マッコウクジラ）をまとめた（久保田・山口・岸田, 2012; 山口・久保田, 2013）。

今回、これらの報告に続き、2013 年 4 月から 2017 年 2 月までに田辺湾に出現した鯨類記録（紀伊民報, 2014a, b, 2016a, b, c, 2017）を以下にまとめた：2014 年 2 月 13 日（「イルカ」）；2014 年 3 月 22 日（「イルカ」）；2016 年 1 月 8 日（「イルカ」）；2016 年 2 月 27 日（「イルカ」）；2016 年 4 月 2-3 日（「ゴンドウクジラ」）；2017 年 2 月 14-16 日（「イルカ」）。

これら 6 回の生体の目撃例は、いずれも種の査定がなされていないものばかりであり、写真からも同定は困難であった。さらに、2017 年 4 月 10 日、京都大学瀬戸臨海実験所が管轄する島島の西岸に、ハクジラ類のストランディングが 1 件あった。当日は島島での大学生の実習で、島に上陸した際に発見され、引率の当実験所の研究員 2 名により写真が撮影された（図 1）。この個体は全長約 2.2m で腐敗が認められた。その個体の歯は片側に 30 本程度あった（図 1）。吻は不明確で頭部がなだらかに細くなり、腹部の白色と背部の色が明確に分かれ、歯列からみてもサラワクイルカの可能性があった（図 1）。

山田 格氏に画像などをお送りした結果、専門家ならではの回答を頂けた。その要点をまとめると、「本来の体色を反映しない可能性、吻とメロンが区別されそうだが傷んでいることから、種同定に必要な情報が欠けているが、サラ

ワクイルカである可能性もありえます。」とのご教示であった。この種であれば、当該海域では新記録となる。



図 1 和歌山県田辺湾に所在する島島へのハクジラ類のストランディング
上：全形、スケール 13cm
下：頭部のクローズアップ

謝辞

島島への漂着個体を同定して頂いた山田 格氏（国立科学博物館）、島島で現場写真を提供して下さった京都大学瀬戸臨海実験所の河村真理子氏と佐藤 崇氏、並びに同定にお力を頂いた岸田拓士氏に深謝致します。また、新聞記事のご教示を頂いた紀伊民報の山口一夫氏に深謝致します。

引用文献

- 紀伊民報. 2014a: イルカ迷い込む. 2014 年 2 月 15 日付.
- 紀伊民報. 2014b: イルカ迷い込む. 2014 年 3 月 23 日付.
- 紀伊民報. 2016a: イルカ迷い込む. 2016 年 1 月 9 日付.
- 紀伊民報. 2016b: 衰弱イルカ迷い込む. 2016 年 2 月 28 日付.
- 紀伊民報. 2016c: ゴンドウクジラ迷い込む. 2016 年 4 月 5 日付.
- 紀伊民報. 2017: 湾内にイルカ 2 頭. 2017 年 2 月 18 日付.

- 久保田 信・山口一夫・岸田拓士. 2012: 和歌山県田辺湾に最近の 20 年間に漂着・座礁・迷入したクジラ類 (哺乳類). 南紀生物, 54(1), 79-80.
- 山口一夫・久保田 信. 2013: 和歌山県田辺湾でスジイルカの集団座礁. 南紀生物, 55(2), 141.

(〒 649-2211 西牟婁郡白浜町 459)

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所